

日本の力を世界に魅せる 5色の岡山ジーンズ



— 5つの色は団結と絆の証 —

JOC 公式ライセンス商品



インディゴ×ブルー



インディゴ×ブラック



インディゴ×レッド

魅せろ!日本の団結と絆!

これが職人の底力!



インディゴ×イエロー



インディゴ×グリーン

聖地:岡山

今や、「デニムの聖地」とまで呼ばれる岡山。
長年、培われた経験と知識によって生まれるジーンズの質の高さは、世界でもトップクラスです。

本ジーンズは、「日本を応援するために何ができるのか?」というところからスタートし、生まれ、製品となりました。

世界も納得の拘り

ふっと見ると、気にも留まらないような糸・生地・シルエット・ボタンやリベットといった細かな部分に拘り、生産過程において非効率的であっても拘るべきところには徹底的に拘りを持って製作しています。

なぜ、そんなに拘るのか?

それはジーンズが無敵性を秘めているからです。その人が穿くジーンズは、その人にしか出せない表情があるのです。デニム生地の織り方、使用する糸、染色方法、そして、何より着用する人の身体、生活の違いにより、インディゴの色落ち方など変化の仕方は、十人十色無限に存在します。デニムという一般的で大きな意味合いの中に隠れた可能性を最大限引き出しています。

有限会社 Klax-on JOC L-660
〒710-0016
岡山県倉敷市中庄649-1
電話:086-463-7211

5色の岡山ジーンズが誕生する現場

雄大な瀬戸内海の景色を臨む岡山県を中心とする周辺エリアは、古くから綿産業が盛んであった。紡績産業は全国的にも有名であり、殊に、岡山県倉敷市は被服生産で国内の大きなシェアを占めている。国産ジーンズの発祥の地・倉敷市児島は、「ジーンズの聖地」として全国にその名を馳せている。確かな職人の腕が生み出すジーンズは、世界屈指である。そして、今も昔もそこに変わらずあるのは、そこに暮らす人々の絆と誇りである。



無造作に巻かれているのではなく、巻き方もちゃんと考えられている。



何本もの綿糸がきれいに寄せ集められ、次第に1本の太いロープ状になっていく。誰もが聞いたことがあろロープ染色」とは、この状態でインディゴの層を通して染色するから「ロープ染色」と呼ばれる。



大きくももの葉が張られたような光景。ロール状になった綿糸から1本1本綿糸が引き出され……。



最終、職人の手によってさらにきれいに糸を整えてローラーに巻き付けていく。これが機屋に送られ、織機に装着され、織り上げられていく。



糊付けされた直後のホヤホヤ状態の綿糸。写真でわかる通り湯気が出ている。結構な高温で糊付けしていることが推測できる。



「染色」「分選」された後の綿糸が機会の中に引き込まれていく。ちなみに「染色」「糊付け」される綿糸は、デニムのタテ糸になる。デニムのヨコ糸は通常、白いままの綿糸が使用されるが、今回のモデルでは5色に染められたヨコ糸を採用。



染色されたロープ状の綿糸は「分選」と呼ばれる工程で、再び1本の糸に分けられ、きれいにローラーに巻かれ、「糊付け」の工程に移る。写真は糊付けの機械である。

紡績・染色

5色のデニムは1色1色の色合いにこだわり、究極の色落ちが楽しめる生地に仕上がっている。生地・色落ちの特性を左右するヨコ糸の色を変えることによって、自分だけの“1本”へと変化する。

織布

究極の“色”デニムは職人なくして実現しない

5色に染められた綿糸は、岡山県某所の機屋に送られ、手入れが行き届いた旧式力織機で織り上げられる。のどかな田園風景のなか、ガシャコンガシャコンと会話すら遮る力強い音を立てて織り上げられていく様は圧巻。手入れが行き届いているとはいえその日の気候や温度、環境によって生地の仕上がりが左右されるため、この道何十年の職人が1日中付き切りで目を光らせている。



今も昔も変わらない機屋の風景。でも音だけは紙面では伝えられない、とにかく会話も出来ないほどの音が1日中続く。



一般的なデニム生地は、タテ糸はインディゴ染色されているが、木製のシャトルにヨコ糸（5色のそれぞれの綿糸）を装着し目にも止まらぬスピードで左右の往復運動をすることで生地織り上げていくのだ。

革新織機が主流で活躍する今もお旧式のシャトル織機に拘り、それぞれの色のデニム生地が織り上げられていく。



縫製

織り上げられたデニム生地は、裁断され、縫製工場で縫い上げられる。生地やパーツだけでなく、シルエットも熟慮されており、穿いたときにもっともカッコよく見えるシルエットを完成させた。



これも指示書のひとつ。素人目には何を支持しているのかわからないが、縫製職人はこれをもとに縫い上げていく。



多くの職人の試行錯誤と技によって、岡山で生まれた5色デニム生地はは珠玉のジーンズになっていく。彼らの協力なくしては誕生し得なかった。



究極の色落ち

一般的にジーンズを作る生地であるデニムの多くは、インディゴでロープ染色されたタテ糸と白もしくは、生成りのヨコ糸で織り上げられている。生地の表面のタテ糸がが強調され、裏返してみるとヨコ糸が顔を出す。“普通”のジーンズとの違いは、明らかである。このジーンズは、インディゴでロープ染色されたタテ糸と、ブラック・ブルー・レッド・イエロー・グリーンの5色のカラーに染められたヨコ糸を色ごとに分けて、織り上げられている。そうすることで、表面はインディゴブルーのタテ糸とわずかに見える各色のヨコ糸が混じり合った独特の表情ができ、裏返すとビビットなそれぞれの色が現れる。13. 5ozのオリジナルセルビッチデニムを採用し、シルエットはレギュラーストレートを採用。



これが裏地の色である。インディゴ染色されたタテ糸と共に織られた表の表情からは、これだけパワフルな色は想像し難い。



インディゴ×ブルー



インディゴ×ブラック



インディゴ×レッド



インディゴ×イエロー



インディゴ×グリーン

「色」を穿き込む

デニムは穿きこめば穿き込むほど、体に馴染み、“味”が出てくる。まさに十人十色落ちなのである。従来のジーンズはインディゴで染められたタテ糸が色落ちすることによって、それぞれ“味”を醸し出す。このシリーズでは、タテ糸に加え、ヨコ糸にも染色された糸が採用されているので、その変化は未知数だ。



インディゴ×ブルー



インディゴ×ブラック



インディゴ×レッド



インディゴ×イエロー



インディゴ×グリーン



インディゴ×ブルー



インディゴ×ブラック



インディゴ×レッド



インディゴ×イエロー



インディゴ×グリーン

*写真は、膝裏の色落ち見本で熟練した職人によって施され、波打つようなハチの葉はとても自然に仕上がっている。

ジーンズの聖地で生まれた5色のジーンズ!! スペック徹底解説!!



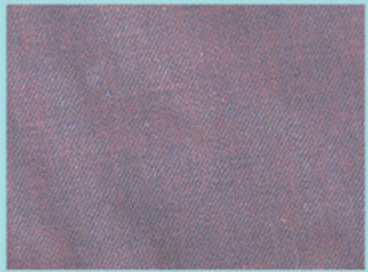
フロントはボタンフライになっている。昔から月桂樹は栄光の象徴であると言われ、その刻印が施されたドーナツボタンを採用したトップボタン。



フロントスモールボタンはシンプルなドーナツボタン。品質を追求したシンプル仕様だが、機能性・耐久性に優れ実用性は高い。



コインポケットの生地にももちろんセルビッチデニムが使用され、デニムファンも納得のディテール。ポケット部分に使用されているのは打ち抜きの銅製リベットを採用。



非効率ではあるが、革新織機で織られた生地にはない穿きこんだ時のセルビッチデニム独特の風合いや経年変化のため、旧式シャトル織機で織られた13.5ozのデニム生地が採用されている。



ファッション性も考慮し、立った時でもスッキリと見えるバックスタイル。この部分はジーンズの中でも何重にも生地が重なり縫製が困難な部分であると同時に、職人の技が光る所でもある。



岡山の職人たちだから生み出すことのできる5色のジーンズ。そこには、染色・織・裁断・縫製の工程を行う職人の技、物作りに対する熱意と情熱がある。職人とのチームワークと絆が実現させたこのジーンズには、穿き込めば穿き込むほどその表情を変えていく、これは経年変化やエイジングと言うような表現がされる。ここではその経年変化やエイジングが楽しめるディテールを、たっぷりと紹介しよう。



ポケットのスレーキ部分(ポケット)には「がんばれ!ニッポン!」のスローガンそして、「対極」をコンセプトのもとにデザインされたエンブレムが 職人によりスタンプで丁寧に手押しされ、一つ一つ違う表情を見せてくれる。



革パッチもデニム生地同様に、洗いをかけたり穿き込むことで縮んだり、飴色に変化したりとエイジングの楽しめるディテールである。



ベルトループは何度も折り返されて、中央が盛り上がっている。着用することで、この部分が擦れ色落ちを始める。これは本来、機能性や作業着としての強度を高めるの為の縫製だったが、現在では経年変化を楽しめるディテールの一つである。



表側からは一見目にはつきにくいですが、バックポケットの強度を高める実用的なディテールである銅製隠しリベット。ここも表の盛り上がっている部分が擦れ独特の色落ち方をする。



穿き込むほどに、穿く人の体に馴染み、さらに穿き込む事で、さらにその味わいを増すセルビッチデニム。本シリーズは「赤ミミ」が採用されている。